

暖エコライフアンケート結果

0. 回収数

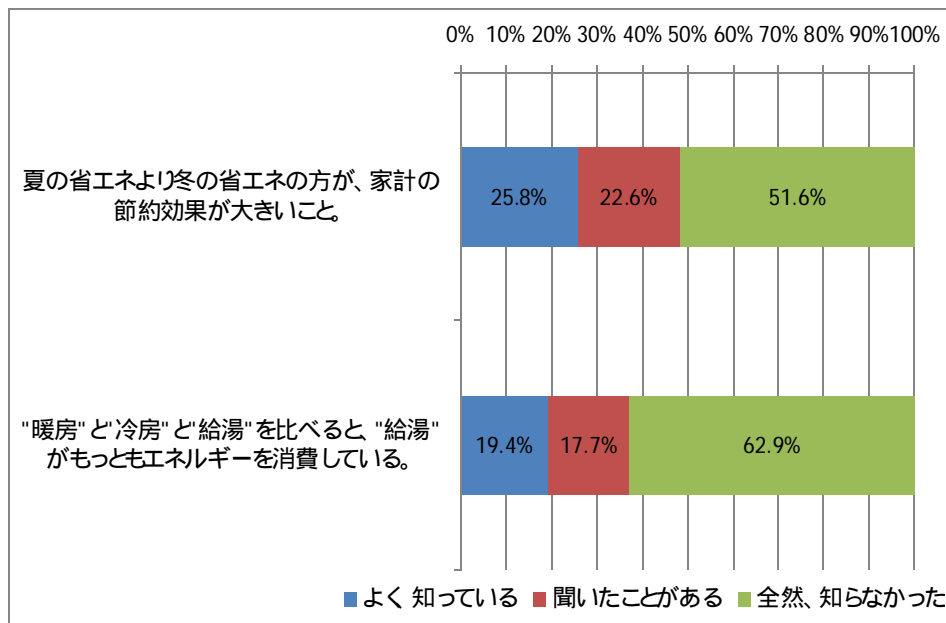
アンケート回収数 62 件

(内訳)

	男性	女性	無回答	合計
20 歳以下	2	4		6
20-29 歳		3	1	4
30-39 歳	3	2		5
40-49 歳	4	4		8
50-59 歳	3	6	1	10
60-69 歳	5	9	1	15
70 歳以上	4	10		14
合計	21	38	3	62

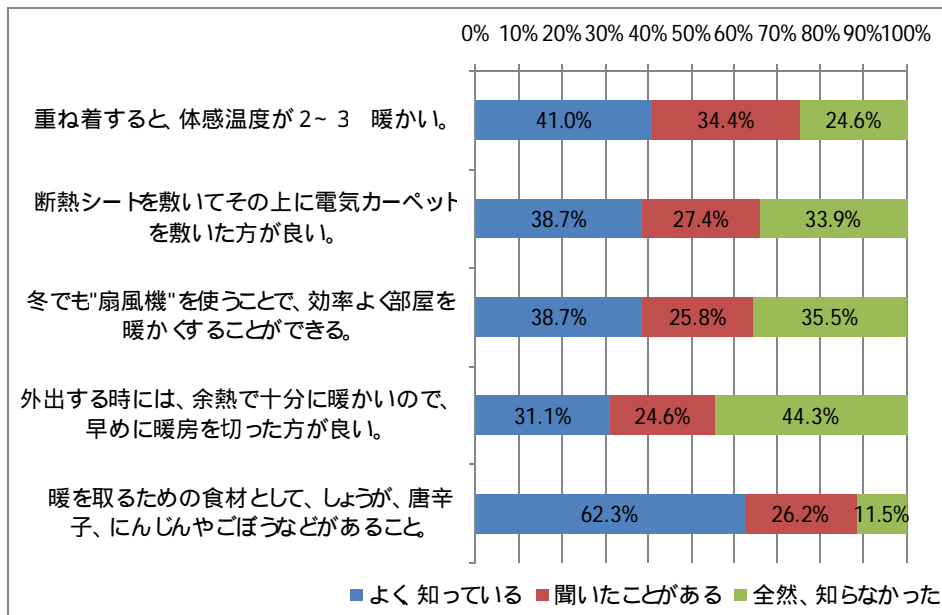
アンケート回収日 10月23日(金)、24日(土)

1. 暖房による CO2 排出量に対する認識について



冬の省エネの方が節約効果大きいことについては、ほぼ半数の人が少なくとも多少の認識はあったことがうかがえる。一方、“暖房”“冷房”“給湯”のうち、給湯のエネルギー消費がもっとも大きいことは、6割を超える人で認識がなかった。

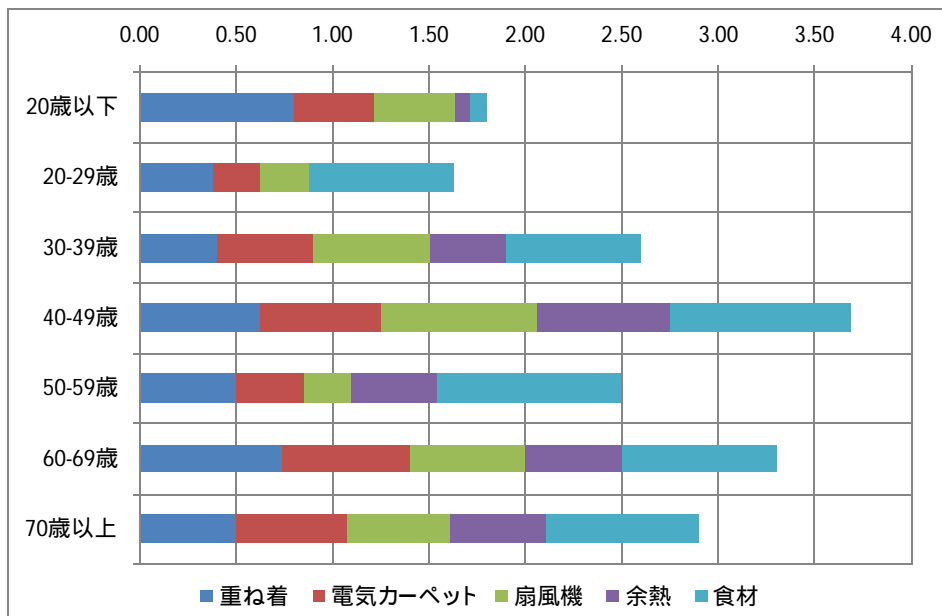
2. 暖エコライフに対する認識



暖エコライフに対する認識では、「食材」についての認識がもっとも高く、9 割弱の人で何らかの認識があった。以下、「重ね着」が7 割強、「断熱シートの利用」「扇風機の利用」が6 割強の認識となった。「外出時の暖房」は、取り組みとしては最も容易と考えられるが、今回の暖エコライフの項目の中で、最も認識が低かった。

3. 年代別の暖エコライフに対する認識

年代別の暖エコライフに対する認識を比較するため、取り組み別の認識の状況を指数化しグラフを作成した。



これを見ると、最も認識が高いのが40-49歳、以下、60-69歳、70歳以上となっている。各年代で、おおむね各項目に対する認識の高低に大きな差はなく、まんべんなく理解されていると考えられる。ただし、20歳以下については、全体の認識は低いが、「重ね着」についての認識は高い。また、20-29歳では、相対的に「食材」の認識が高い。

<まとめ>

環境フォーラムの来場者については、CO₂の排出原因や暖エコライフに対する認識は比較的高いのではないかと考えられる。こうした認識を、具体的な実践に結び付けることが重要だと考えられる。

以上